



“Pure CS” Project Photo Letter



No. 3, 31. July, 2018

今年の雨期は例年よりも雨が多いように感じます。ミャンマー南東部では洪水の被害が報告されています。プロジェクトではイネが災害に見舞われることなく順調に生育することを祈りながら田植えをしています。プロジェクトが実施する研修に参加している農業局普及員の多くはCS生産の実務経験が少ない20代の女性ですが、皆積極的に講義や実習に取り組んでいます。



7月に入りエーヤワディー地域の田植えが本格化しています。ミャウンミヤ郡では、ミャンマーでは珍しく、深水の水田で「田植え棒（フォーク）」を使って大苗を突き刺すように植えています。

7月中旬に農業機械の専門家が来緬し、プロジェクトで新規に調達予定の種子調整機据付け場所の選定を行うと共に、先行プロジェクトで2012年に供与した同型機材の点検を行いました。

今年10月から始まる新年度の予算編成に向けて、エーヤワディー地域農業局事務所の幹部とプロジェクト関連予算について協議しました。



種子生産・圃場審査にかかる普及員研修をエーヤワディー地域とシュエボー郡の全33タウンシップ、計140名を対象にパテイン、ヒンタダ、シュエボーの3か所を拠点として4回（シュエボーは5回）シリーズで実施しています。7月上旬に実施したパテインとヒンタダの研修では6月に播種した苗を参加者が3グループに分かれて田植えしました。また、中部乾燥地のシュエボー郡では一か月遅れて7月下旬に第一回の研修を行い、実習では同地域の特産「ポーサン・イン品種」を播種しました。



首都ネパドー近傍のイエジン農業研究局では全国のお原種・原種生産農場へ配布する育種家種子の増殖を行っています。7月中旬には田植えが終わり、遺伝的に最高の純度が求められる種子増殖が始まります。

CS（保証種子）バリューチェーンの構築を目的に農業局、種子生産農家、コメ生産農家、精米業者、仲買人等ステークホルダーを対象とした会議をエーヤワディー地域で4ヶ所及びシュエボー郡で1ヶ所開催しています。今回は、ヒンタダ、シュエボー、ピアボンの3郡で夫々第2回目の会議を開催し、CSの品質の重要性を理解すると共に、CS生産計画、CS販売価格、コメの品質と買取価格の関係等について協議しました。

7月上旬に西日本を襲った豪雨、中・下旬に続いた猛暑に、ミャンマーの方々から多くのお見舞いの言葉を頂きました。ありがとうございました。HP (<https://www.jica.go.jp/project/myanmar/029/index.html>) も開設しましたのでご覧ください。（編集委）